

精魂込めて



勇気を育てる対話

子どもたち一人一人が、「この学校なら自分らしくいていい」「この学校なら自分のペースで成長していける」と感じてくれているだろうか。私は日頃からそんなことを考えています。学校生活の中では、学習や部活動、人間関係など、さまざまな場面で悩んだり迷ったりすることがあります。しかし、その一つ一つの経験は、子どもたちの成長につながっていきます。だからこそ、自分自身を大切にしながら、自分の歩幅で前に進んでいってほしいと願っています。

また、「勇気があってよかった」「勇気があったからできた」「勇気があれば、何でもできそうな気がしてきた」という実感を大切に育んでいきたいと思っています。ここでいう子どもたちにとっての勇気とは、何か特別なことに挑戦することだけではありません。友達に声を掛けること、自分の思いを伝えること、失敗してももう一度やってみること、困ったときに「助けて」と言うことも勇気です。そうした小さな勇気の積み重ねが、自信となり、成長する力となっていくのだと思います。

一方で、大人にとっての勇気とは、子どもを信じて待つことかもしれません。私たちはつい答えを急ぎがちですが、子ども自身が考え、選択し、成長していく力を信じて見守ることもまた、大切な支援の一つです。子どもたちが安心して自分らしく過ごし、小さな勇気を積み重ねながら成長していける学校であり続けたいと思います。

自分のペースで、一歩ずつ

来週、学期末懇談会を予定しております。1学期の締めくくりとして、学校と家庭が子どもたちの成長を共に振り返る大切な機会です。どうぞよろしくお願いいたします。

また、まもなく始まる夏休みは、お子様との対話を深めるよい機会でもあります。中学生は心も体も大きく成長する時期であり、その一方で悩みや迷いも増える年代です。ご家庭においても、次のようなことを意識していただければ幸いです。

① 子どものペースを大切にする

成長にそれぞれのペースがあるように、対話にもその子なりのペースがあります。話したくなるまで待つこと、そして話し始めたときにしっかり耳を傾けることを大切にいただければと思います。

② 子どもの選択を尊重する

自分の行動や将来について考え、選択することは、子ども自身の大切な学びです。もしその結果としてつまづくことがあったとしても、「また立ち上げられるように応援するよ」という姿勢で支えていただければと思います。

③ 正しく伝え合うことを大切にする

長い時間である必要はありません。短い会話でも、お互いの思いが正しく伝わるのが大切です。子どものタイミングも尊重しながら、対話の積み重ねを大切にいただければと思います。

夏休みが、子どもたちにとっても保護者の皆様にとっても、勇気と対話にあふれた時間となることを願っています。そして2学期、子どもたちがそれぞれの成長した姿で元気に登校してくれることを楽しみにしています。